

## セルビアの美しい自然と都市

松田 美勇史

セルビア滞在中、私たちはワークショップを行うだけでなくセルビア各地の観光もしました。セルビアの生徒たちと一緒に、パンチエボの他、ベオグラード、スポティツアを巡りました。ベオグラードにある日本大使館を訪れた時には、春の好天の中、ドナウ川の周辺を散歩しながら、新市街から中心部まで向かいました。ドナウ川の川幅は200m程でした。辺りには草原が広がり、川沿いの道ではたくさん的人がウォーキングやジョギングを楽しんでいました。川の周辺は、豊かな緑で賑わっていました。

ベオグラードでは、ドナウ川とサバ川の合流点を見下ろす小高い丘の上に建てられている、有名なベオグラード要塞へ行きました。城の外側は城壁に守られていて、中には防空壕や大砲などがありました。この要塞は、紀元後2世紀頃、ケルト人によって戦略的に建てられ、これまで何度も建設と破壊が繰り返されてきました。この要塞の頂上には、カレメグダン公園という美しい公園があり、たくさんの木々があり、花が咲いていました。また、城壁側へ近づいていくと、ベオグラードの景色が一望でき、ドナウ川を挟んで旧市街と新市街が分かれている景色を楽しむことができました。また、ベオグラード動物園にも訪れました。そこでは、日本では見ることが難しい白狼を見ることができました。ベオグラード観光の際には、ベオグラード第三ギムナジウムのPASCH生たちが案内してくれ、動物園ではエリア一つ一つを丁寧にドイツ語で説明してくれました。

また、ワークショップの取材の折、スポティツアというセルビア最北の町を訪れる機会がありました。この町の建築物はとても美しく、歴史的な建築物が多くありました。この町は、セルビアの北部で国境を接しているハンガリーとオーストリアによる影響を強く受けているそうで、色彩豊かで、住居は様々な模様で装飾され、街並みがカラフルでした。銀行や教会、オペラ劇場や宮殿などを見て回りましたが、どれもハート形の模様を多く用いて、とても印象的でした。

最後に、私たちの主な活動拠点であったパンチエボについて紹介します。パンチエボはベオグラードの東側に隣接している工業都市で、ここに私たちがお世話になったウロシュ・プレディッチ・ギムナジウムがあります。私たちは、セルビア滞在中のプログラムの大半をこのパンチエボで過ごしました。滞在10日目に、セルビアの伝統舞踊である「コロ」を教えているクラブを訪れる機会がありました。このクラブでは、小学生クラスと中高生クラスの踊りを見学しました。私は、ストリートダンスが趣味なので、他国の踊りを見るのは、とても興味深かったです。踊りのフォーメーションも複雑で、ステップやリズムも難しそうでした。また、この「コロ」を見ていてふと思ったのですが、セルビアの伝統舞踊文化とセルビアの男女の親密度は関係性があるのではないかでしょうか。セルビアでは男女の親密度が高く、挨拶の際、頬にキスをしたり、抱擁をしたりする習慣がありました。社交ダンス・フォークダンス・コロなどの伝統舞踊でも、パートナーの腰に手を回したり、手を繋いだりする動作がありました。このような男女の親密さは、伝統舞踊を通じて現代のセルビアにも伝わっているのではないかと思いました。

2週間という短い滞在期間でしたが、セルビアの雰囲気を存分に感じ、セルビアの歴史や文化を学ぶことができました。